

年頭に寄せて



経済産業省製造産業局

局長 菅原 郁郎

平成25年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

我が国製造業はグローバル競争に晒されており、円高やエネルギー制約の中で、国内の空洞化が進行しつつあります。これまで雇用や経常黒字を支えてきた製造業の復活なくして日本経済の再生はなく、世界で勝ち抜くために必要な競争力強化策を検討し、それを実施することが不可欠です。経済産業省としては、まずは以下の施策に重点をおき、製造業からの日本経済再生を推進してまいります。

第一に、国内の産業空洞化を阻止するため、国内事業環境の整備を進めてまいります。我が国製造業の国際競争力を高めることができるよう、例えば、先端設備投資等の促進や、イノベーション基盤の強化、エネルギー制約克服のための省エネ・自家発電設備導入支援等を行ってまいります。また、レアアースをはじめとしたものづくりに不可欠な資源の安定供給の確保、代替材料開発、使用量削減技術の開発等を支援します。税制面では、車体課税の抜本の見直し、研究開発促進税制の拡充、グリーン投資減税の拡充等、経済産業省

として様々な改正要望を行っており、その実現に努めてまいります。

第二に、グローバル市場の成長を我が国の経済成長に取り込むため、更なる海外需要の獲得を目指します。まずはその基盤として、国益に即して、高いレベルの経済連携を積極的に推進してまいります。その上で、インフラ分野における官民一体となった新興国需要の受注獲得や、特許技術と標準化技術を戦略的に組み合わせたビジネス戦略等を後押しいたします。

第三に、次世代産業の創出・育成を進めてまいります。既存産業の活性化を進める一方で、市場拡大が見込まれる成長分野に集中的に投資することが重要です。具体的には、次世代自動車の導入促進、我が国が最先端の研究をリードする再生医療の実用化・産業化に向けた制度の見直し、生活支援や事故対応等に資するロボットの研究開発支援等を行ってまいります。

このように製造業全体の取組を実施していく中で、航空宇宙分野の支援にも力を入れてまいります。

航空分野においては、初の国産ジェット機であるMRJについて、年内に予定している初飛行を含めて、スケジュール通りに開発が進み、量産が実現されるよう後押ししてまいります。また、機体やエンジンの国際共同開発プロジェクトにおいては、PW1100Gエンジンなど海外のOEMとの共同開発を着実に進めていくことで、日本が欠かせないパートナーとなるよう引き続き支援してまいります。さらに、中長期の取組として、我が国航空機産業が、材料から運航、整備までのバリューチェーン全体で大きな競争力を持てるよう既存の枠組みを超えた産業間の連携を支援してまいります。

宇宙分野については、2008年の宇宙基本法成立以来、宇宙開発利用の目的を「科学技術の進歩」重視から「利用拡大・産業の振興」等へ拡大する政策転換が図られています。こ

うした流れから、昨年7月、我が国の宇宙開発利用推進体制の見直しがなされ、宇宙開発利用の司令塔となる宇宙戦略室の設置や、内閣府及び経済産業省を新たにJAXA主務大臣へ追加する等の改革が行われました。経済産業省といたしましても、内閣府宇宙戦略室を始めとした関係省庁と緊密に連携しながら、海外需要の獲得、産業競争力の強化、新規需要の開拓等の宇宙産業政策を一層強力に押し進めてまいります。

以上のような施策を遂行していくことで、経済産業省は我が国製造業の更なる発展に寄与していきたいと考えております。

最後になりましたが、本年の皆様方の御健康と御多幸を祈念いたしまして、私の新年の御挨拶とさせていただきます。

平成25年元旦